

第4回 甲賀市総合計画審議会意見（抜粋）

- 甲賀市には多くの歴史的な建造物や城跡がある。多過ぎるがゆえに集中的な取組とできない。まずは1つに集中して投資をすることも考えてはどうか。
- 市民全体へのデジタルデバイド対策（情報格差）を進めてほしい。
- 聴覚障がいの方は、災害時の情報が十分に届かないことに不安を感じている。
- 障がい者の日常用具の購入支援制度の柔軟な運用を希望する。家族などの介護者がいる場合は活用できないケースがある。本当の意味での「自立」を目的とした制度になっていない。
- 手話が必要なときに利用できるよう、行政における手話通訳者の増員に期待している。
- ヨーロッパにおける生活困窮者支援は「食」と「屋根」が必要とよくいわれる。
- 食品ロスとして生まれる余剰食材を生活困窮者等支援に活かすべき。
- コロナ禍による臨時休校時に余った給食食材は、本当に必要な人に届いたのか疑問に感じている。
- 概ね学区ごとにある自治振興会の力を借りることができれば、きめ細やかでスピード感のある支援ができたのではないか。
- 障がい者への情報提供などは、ICTなどを活用すれば大きく改善する。
- ICTを活用すれば日常の暮らしの改善が図れるにも関わらず、使い方などの情報が市民へ届いていないのが問題。
- 意思疎通支援事業（代筆、代読支援）を実施している自治体は全国で14しかない。甲賀市でも制度運用を開始していただきたい。
- 「7. 生涯学習・文化・スポーツ」の「スポーツの振興」において、競技者や指導者の育成とあるが、パラリンピックの視点から「支援者育成」も重要となる。
- 情報をダイレクトに提供できるLINEの活用を検討いただきたい。
- 福祉避難所が指定されているが、車椅子の乗入れやトイレの使用など、実際の受け入れができる施設か再精査が必要である。
- 太陽光パネルに景観上の課題を感じる。景観維持のための制限やゾーニングが必要な時期を迎えている。
- 子育てサークルやサロン活動への行政の理解が足りない。財政的支援というよりも、チラシ配布など応援する姿勢を示してほしい。